

事業評価調書

◎基本情報

年度		令和5年度	会計コード		10	一般会計		事業コード		37146
事業名		進路探究オリエンテーリング事業費								
評価担当課		所 属		教)学校教育部 教育推進課				電話番号		011-211-3891
施策名		地域社会での体験活動など、多様な学びの機会が提供され、学校、								
アクションプラン		● 対象 ○ 対象外								
事業の性質		○ 経常経費 ● 臨時的経費				○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費				
		○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助・助成 ○ その他								
事業内容	事業の背景(現在の状況、社会的課題)		中学校においては、子どもが現在や将来に希望をもち、その実現を目指して生き方や考え方について考える進路探究学習(キャリア教育)に取り組んでいる。各学校において、職業体験等を実施し、勤労の意義や働く人々の思いを理解している。 一方、共生社会の実現に向けて、人や社会との関りの中で、自他の個性や多様性について理解し、自分の役割を果たすことや、主体的に学ぶこと、働くこと、生きることについて考え、「自分らしい生き方」について考え、実行する資質・能力の育成が急務である。							
	事業内容(何を実施し)		札幌市における小学校から高等学校に至る系統的・組織的な進路探究学習の充実を図ることを目的に、平成25年度から実施している専修学校等と連携した中学生対象の職業体験講座を、引き続き実施する。 令和5年度は、実施時期を夏休み中の第1期と冬休み中の第2期に分け、計120講座を開設し、受講希望者を募集した。各期において、一人につき複数講座の受講を認めたため、延べ871名の中学生が体験講座を受講した。 また、中学1、2年生で行われてきた職業調べや地域における職場体験を踏まえ、働くことの意義や役割、多様な生き方について理解を深め、主体的にキャリアを形成しようとするキャリアプランニング能力を育成することができるよう、中学校及び中等教育学校の3年生、義務教育学校においては9年生を主な対象としたキャリアプランニング講座を実施し、進路探究学習の更なる充実を図ることを目的として「キャリアプランニング講座」事業を立ち上げた。中学校6校の707名が受講した。							
	どのような状態にしたい(状態を維持したい)		多様な職業体験の機会をより多くの生徒に提供することによって、発達の段階に応じて、早期に職業観、勤労観の形成を図る。また、本事業への参加をきっかけに、自分の生き方や進路を考えることができた生徒の割合を高めたい。							
	他都市の状況		進路探究施設については、京都市、東京都品川区、仙台市、いわき市などで実施。 京都市などいくつかの市において、公益財団法人が作成したプログラムを用い、専用施設において職業体験学習を実施している。							
	市民参加の実施		□ 企画 □ 実施 □ 評価 ■ 対象外							
令和4年度決算額		9,243 千円		うち特定財源		0 千円		正規職員業務量		0 人工
令和5年度予算額		10,000 千円		うち特定財源		0 千円		正規職員業務量		0 人工
令和5年度決算額		13,999 千円		うち特定財源		0 千円		正規職員業務量		0 人工
令和6年度予算額		10,000 千円		うち特定財源		0 千円		正規職員業務量		0 人工
指標	アウトプット活動指標1		事業に参加した中学生の人数				という活動、業務を行うことで			
			令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定		
			577	850	871	900	1000	1100		
	↓									
	アウトカム成果指標1		自分の生き方や進路を考えることができた子どもの割合				という状態にしたい、成果を挙げたい			
			令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定		
				70	52	75	80	85		
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方		今後も事業の質的充実を図り、指標1の達成を継続していく。							
	アウトプット活動指標2						という活動、業務を行うことで			
			令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定		
	↓									
アウトカム成果指標2						という状態にしたい、成果を挙げたい				
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定			
指標2の評価、未達理由、今後の考え方		令和5年度実績は「そう思う」と回答した生徒の割合であり、「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合も含めると、約9割の生徒が肯定的に回答していると捉えている。								
今年度の見直し内容		なし								
来年度以降の方向性		中学生に職業体験の機会を提供し、進路探究学習の更なる充実を図るため、現状を維持する。								